1Aa－8

女子短大生の調理教育における研究（第６報）
－学生の食生活と調理への期待－

○神田あづさ　坂東幾美　太田美穂　和辻敏子（甲子園短大）

（目的）　高等学校までの調理実習では受験準備等の様々な影響を受け、必ずしも十分ではない。そのような教育環境の中で、近年短大に入学した学生の実習内容も変更を余儀なくされる。そこで我々もすでに調理手順における理解度と食生活に関する態度および食意識の関連を報告してきた。今回は、学生が調理実習に望んでいるものやその要因について検討し、調理実習指導の一助とすることを目的として調査した。

（方法）　１）調査対象　平成７年度入学した本学家政科学生２２２名である。　２）調査期間　平成７年４月および平成８年１月に実施した。　３）調査方法　質問紙による自己記入方法を用いる起票留置法によった。

（結果）　１）外食を利用する理由としては友人とのコミュニュケーションを深めるため、作らなくてもいいから、時間のゆとりがないの順に多く、友人とのコミュニケーションを深めるためは５割を越えた。　２）調理実習での学生の要望は料理法、献立、栄養の順に学びたいと答えている学生が多い。　３）具体的に作りたい食事は和風の煮物が５割を越え、その理由としては１番に味付け、２番目に手順と答えている。菓子で作りたいものでは、１番目は洋風焼き菓子で２番目は洋風冷菓であり、その理由としては１番目に手順、２番目に味付けとなっている。　４）後期実習終了後の自己評価については、切る、盛りつけともに得意になったものが５割を越え、調理手順も４割以上であった。